

(1)英語科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
知識・技能	観点が昨年度より変更しているため検証はできない。 単語や語形変化に関する問題の正答率が低いため、例文を使った単語の導入や文法のパターンブラクティスを多く取り入れた授業を展開することでそれらの知識の定着を図りたい。タブレット端末を活用した授業を展開することで生徒の文法の知識の定着度は高まったように感じる。今後もタブレット端末を活用した家庭学習用の課題を発信し、よりたくさんの練習を家庭でもできるようにし、より一層の定着を図りたい。
思考・判断・表現	観点が昨年度より変更しているため検証はできない。 英問英答や英語を書く問題の正答率が低いため、日記を書く課題や文法導入時の宿題等で表現問題に毎時間取り組ませることで英文を書くことに慣れさせたい。場面や状況に応じた応答もペアワークやALTとの会話活動などの言語活動を増やしていくことで定着させたい。タブレット端末を活用しプレゼンテーション形式でのスピーチ発表を行うことで、生徒の発想が飛躍的に豊かになった。今後もタブレット端末を活用した授業展開を工夫していくことで英語力の向上を図っていききたい。
主体的に学習に取り組む態度	観点が昨年度より変更しているため検証はできない。 授業における発言や授業の活性化に関しては改善が見られたが、英語を書く問題に関して無回答率が昨年度より上がっていることから、授業内での意欲が直接「英語を使う」ことにはつながりにくいことがわかった。しかし、タブレット端末を活用することで、家庭で英語に触れる機会が飛躍的に増えたため、今後はこれを生かして「英語を使う」ことの楽しさを伝えていく。ALTとのメールのやりとりや、録音機能を使った発音テストなどを行うことで家庭でも主体的に学習に取り組める環境を整えていきたい。

(2)英語科の学習効果測定等における分析(内容別・観点別[1年のみ])

内容項目	分析
聞くこと	1年生はほとんどの項目において、正答率は大田区、全国の数値を上回っているが、ただし、身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取り、場所を表す表現について内容を理解する問題は、正答率18.8%と大変低い。また、同項目のできないことを表す表現に関する問題も2番目に低い回答率だった。 2年生はリスニングのすべての問題において正答率が目標値を上回っている。その中で対話の内容を聞き取り、資料をもとに答える問題の正答率が低かった。その他にも対話の内容を聞き取り適切に応答するなど、英語を聞き取りそこから考える問題を苦手とする傾向がある。英語を聞いて理解するだけでなく、そこから先を続ける練習が必要である。 3年生は「対話の内容を聞き取り、資料をもとに答えることができる」という記述式の正答率が34.4%ととても低かった。この問題は無回答率が30%となっていた。また、「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる(理由をたずねられて)」に対する正答率も60.2%と2番目に低い結果となった。一方、その他の設問は、70~98%の正答率があり、比較的よくできている。
読むこと	1年生はほとんどの項目において、大田区、全国の数値を上回っている。 2年生は読み取りのすべての問題において正答率が目標値を上回っている。英文を読んで内容を把握することはできている生徒が多い。ただし、英文の内容に関する質問に英語で答える問題は正答率も低く、無回答も多い。読むことだけではなく他の力もつけていかなければ正解できないため、教科書の内容読み取りだけでは十分に力をつけることは難しい。 3年生は「語形・語法を理解することができる(動名詞)」の設問への正答率が27.8%であった。Enjoyは動名詞しかとらない動詞であるということが定着していない様子である。また、「長文の内容に関する質問に英語で答えることができる」への正答率が24.7%と低く、無回答率が32.4%であった。
書くこと	1年生はほとんどの項目において、大田区、全国の数値を上回っているが、資料を参考に自分の話を書く問題について、数値が下回っている。 2年生は平均正答率は目標値を上回っているものの、内容別にみると、目標値を下回っているものが複数ある。並べ替えによる英作文は比較的得意だが、場面に応じて書く英作文は正答率が低く、目標値を下回っている。また、無回答も多い。文法事項としては現在進行形の理解度が目標値より低く、正しく単語を書く問題も無回答が多いなど、単語の練習を含め、自分の考え等をまとめた英文で書く練習が必要である。 3年生は「相手に天気をたずねる」「待つ」の正答率が50%程度と他の問題に比べて低かった。また、昨年度に比べて、「まとめた内容で文を書く」に関連する設問の正答率が10%以上下がっていた。しかし書くことに関しては他2つの観点の設問よりは高い正答率であった。

観点[1年のみ]	分析
知識・技能	身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取り、その内容を理解しているか、場所を表す表現の問題では、正答率18.8%ととても低い。他の項目では目標値や全国の正答率を上回る結果となっている。
思考・判断・表現	小学校の思い出を発表する場面で、資料から自分の思い出に残っている行事を書き写しているという問題では、正答率70.2%と低い。
主体的に学習に取り組む態度	1年生は大田区、全国の数値を下回っている。小学校での英語の教科化が実施され、知識を身につけなければならないという意識が芽生えている結果と推測される。

### (3)英語科の学習効果測定等における課題

<p>1年生はほとんどの項目で高い正答率である。しかし、主体的に学習に取り組む態度に関しては、区、全国と比較して低い値である。生徒が自分の課題に気づき、目標を設定して、能動的に課題に取り組めるよう支援する手立てが必要である。</p> <p>2年生は平均正答率が目標値は上回っているものの、大田区の数値より下回り、全国と比べると全体ではかろうじて上回るが、項目別では下回っているものもいくつかある。カテゴリー別では活用、書くこと、記述などが苦手な傾向が顕著である。聞き取るだけ、読み取るだけでなくその情報を活用したり、そこから自分の考えをまとめて英語にするなどの練習が必要である。</p> <p>3年生は今回の結果は、大半の設問への正答率が昨年度の結果を下回るものであった。英文法など基礎となる力を定着させられていないこと、また、無回答の割合が多いことが課題だと考えられる。この学年の生徒は比較的「話す」活動には慣れていて良くできるが、体系的な文法知識の定着率が低く、読む・書く活動に慣れていない。そのため、体系的な文法練習および、英文法をもとにした書く力を指導していく必要がある。</p>
--

### (4)英語科の具体的授業改善策

観点[1年のみ]	具体的な授業改善策
知識・技能	ペアワークやグループワークなどを通して、対話的な学びの中に場所を聞いたり答えたりする内容を多く取り入れていく。
思考・判断・表現	長文読解に慣れるよう、まずは本文を読み込むことから始める。単語が書けない生徒が多いので、単語テストも取り入れる。そして短い文章からT&F問題に取り組み、次にQ&A問題とスモールステップを踏んで、最終的に自己表現までできるよう指導していく。
主体的に学習に取り組む態度	「英語学習がわかって楽しい」と生徒が実感できるよう指導内容の工夫をはかる。また、生徒一人一人が自分のつまづきに気づき、積極的に改善を図れるよう、学習の仕方の提示や課題等の工夫に努める。

内容項目	具体的な授業改善策
聞くこと	1年生は帯活動にリスニング活動を取り入れ、小学校で身につけたリスニング力を高めることができるようにしていく。また、音読練習をたくさん行い、英語の語順が自然と身に付くようにする。ALTの授業を最大限活用し、nativeの発音に耳慣れし、発話する機会を増やしていく。 2年生はリスニングの活動を多く取り入れ、生徒の耳を英語に慣らしていく。その際、英語を聞き取り内容を理解することだけでなく、その情報をもとに考えるような活動を増やしていく。 3年生はリスニング指導の際、ただ流して終わりではなく、スクリプトを見ながら聞く活動を必ず取り入れる。また、その有効性を理解させ、インターネット上の音源を利用して、各自家で練習できるようにする。また、教師の発話および生徒間のやり取りは英語を基本とすることで、自然な場面の中での聞き取り力をつける。
読むこと	1年生は教科書の内容理解を中心として、パワーポイントやデジタル教科書による教員のオーラルイントロダクションによって文の大意を生徒に理解させ、初出の英文に取り組むことへの抵抗をなくす工夫を行う。また語形・語法・語彙の知識・理解において、単元ごとに小テストを行うことで、生徒に家庭学習を促し、基礎力を身に付けさせていく。教科書の読み取りだけではなく、副教材や他の長文を利用して読むことを習慣づけ、長文に慣れさせていく。 2年生は教科書の文が長く難しくなっていることを活かし、まとまった文に対する苦手意識をなくし、大まかに内容をとらえる→必要な情報をつかむ、と言う練習を積み重ねていく。 3年生は短めの長文から始め、長文に慣れるとともに、長文の読み方を重点的に指導する。設問の特徴をどう捉えるか、また設問に合わせてどの部分をどう読むかを意識させる。 教科書の読み取りでは、オーラルイントロダクションや映像を活用し、ただ英文を読む退屈な作業ではなく、英語で文章を読み進めながら、概略を捉えていく指導をする。
書くこと	1年生は帯活動として英問・英答練習を充実させ、基本文の定着に力を入れる。また、家庭学習として発音しながら英文を書く練習をするよう生徒に促す。学期ごとに自己表現の発表活動を取り入れ、話すことができた内容について作品を作り、3年間で自己関連性を重視したテーマについて正しい英文で書けることを増やしていく。また、語順を理解するためのワークシートなどを作成し、定期的に小テストを行い定着を図っていく。 2年生は帯活動で、基本文の口頭練習を継続する。基本文の定着を図り、それを活かして英語で表現できるように指導をしていく。学期ごとの発表活動を通し、まとまった文を書く練習を積み重ねて表現力を伸ばしていく。 3年生は教科書のWriting課題を中心に、1つのテーマについて、言いたいことを述べる→理由やさらなる意見を加える→まとめるといった流れで、まとまった文章を書く指導をする。翻訳を使って難しい文を書こうとするのではなく、言いたいことを自分の英語力で書ける内容に言い換えて、自力で書く練習をさせる。

学年	具体的な授業改善策
1学年	<p>小学校で修得した高いリスニング能力を活かし、英会話力を育てる授業にしていく。具体的に、①普段の授業からJETやALTとの会話のやりとりを含めた帯活動を取り入れる。②単語を書くことが苦手な生徒が多いため、単語を書きながら覚える英作文の課題の充実を図る。③英語に対する苦手意識が芽生えていることから、緩急のついた授業展開と、ペアやグループ活動などでわかって楽しい英語活動を定期的に組み込む。</p> <p>以上のことについて、個に応じた指導ができるよう英語科教員で検討していく。</p>
2学年	<p>英語を話すことや、英語で発表することなどへの抵抗感も少なく、音読練習もよくする生徒たちなので、その良さを活かし口頭練習等を継続していく。まずは基本事項を繰り返し練習し習得できるようにする。そしてその基本を応用したり、自分の言葉を加えたりオリジナルなものを作れるようにしていく。今後も、スキット作りや発表などを複数行う。また、聞き取ったり読み取った内容からすぐ答えが出る問題ばかりではなく、考えて答えを導き出すような練習をする。時間を区切り、読むスピードをアップする練習も取り入れていく。</p>
3学年	<p>全体的に英語嫌いの生徒が多いので、英語の歌やペアワークなど、生徒たちが楽しんで取り組める言語活動を継続する。同時に、英文法や長文読解といった受験を見据えた指導も進んでいくので、少人数展開を活用し、生徒一人ひとりの定着度を見極めて文法指導を行う。ペアワーク、発表活動などを通して、対話的な学び、生徒同士の相互教育力を活かして、英語への抵抗感を減らし、スモールステップでの成功体験を積む。100語程度の英文読み取り活動を毎時間行い、生徒の初見英語の読み取りに対する自信に繋げられるよう指導していく。2学期以降は都立高校の入試問題に慣れていけるように、副教材問題集の初見問題や様々な英文読み物教材を取り上げ、制限時間内で問題演習させ、長文を読むことに慣れさせる。また、英作文指導も行い、書く力を伸ばす。</p>